

交通安全シリーズ!

～ペダルの踏み間違いの本当の原因!～

一般社団法人 日本チームマネジメント協会 代表理事 本多 正樹

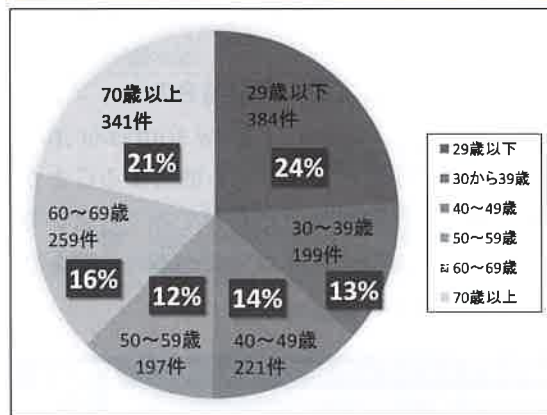
交通事故の原因に、ブレーキとアクセルの踏み間違いがあります。ニュースでは高齢運転者によるものが目につきますが、実際には70歳以上より29歳以下の方が多くなっています。実は心理的要因も大きく左右しているのです。

①ペダルの踏み間違いは高齢者特有の現象?

昨今、高齢運転者が運転操作を誤って交通事故を起こす事例が少なくありません。年をとって「ボケたんじゃないの」と感じる人も多いでしょう。一般に操作の誤りとしては、アクセルとブレーキの踏み間違いを想像されると思います。ブレーキを踏むはずが誤ってアクセルを踏んだことで車両を暴走させ、人の列や建物に突っ込んでしまう事例です。これは果たして、高齢者特有の現象なのでしょうか?

警視庁交通部の交通安全情報

東京都の踏み間違い事故
(年齢層別発生状況・過去5年間)



(警視庁交通部「交通安全情報」(令和元年10月)より)

(令和元年10月発行)によると、都内における踏み間違い事故の過去5年間の発生状況は、29歳以下が70歳以上の発生件数を上回っています。一部のデータとはいえ、踏み間違いは高齢者特有の現象ではないことが分かります。

②なぜ、ペダルの踏み間違いが発生するの?

ペダルの踏み間違いにはいくつかの要因があります。その一つは心理的要因です。突然ブレーキを踏まなければならない危険が迫った時に慌ててしまいペダルを踏み間違えるのです。二つ目に体位困難状態が考えられます。車を後退させる際に、後退確認のため体位が後ろに向くことで足がペダルから遠くなり踏み誤るのです。三つ目は、股関節の可動域に制限が生じ、思うように足の移動ができないといった身体的影響です。

認知症による判断能力も影響はあると思いますが、ペダルの踏み間違い=認知症ではないことは若年層の事故の多さを見ても理解できます。若年層は運転に不慣れである状況で急な対応に迫られた場合の心理的要因が大きいと考えられます。

③ペダルの踏み間違いのシチュエーション!

ペダルの踏み間違いを起こしやすいシチュ



エーションは、駐車する際の後退場面です。細心の速度コントロールでペダル操作が頻繁になる状況、加えてハンドル操作や視点移動、さらに体位変換もあり、同時操作が多くなることで誤動作が生じやすいと考えられます。その状況下でペダルの踏み間違いが生じ、コンビニエンスストアに突っ込んだり、コインパーキングで他の車両に衝突するなどの事故が発生していると考えられます。

④ペダルの踏み間違いを防ぐには!

常に冷静であることが最も大切です。ペダルの踏み間違いは心理的に余裕がなくなった時に発生しやすくなるからです。

後退時の誘導確認ではミラーを積極的に活用しましょう。但し、それだけでは死角が生じるため、目視確認も必要です。また、後方目視確認時に体位が後ろに反りやすいので、車を停止させてから目視確認を行うと踏み間違い発生率は大幅に低減できます。後退時はブレーキペダルのみで行うことを基本としていればワンペダル操作になり混乱は防止できます。オートマチック車ではクリーブ現象を活用しましょう!



「おススメのペダル操作」 踵を付けたままアクセルからブレーキペダルへの踏み換え操作を行うと、ブレーキペダル側面に足が引っかかりやすくなります。踵を浮かして膝の移動でペダル操作をしましょう。